



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和4年5月16日
文責：校長 江上 知男

今週から運動会の練習が本格化しています！



応援団リーダー勢揃い



5・6年生の練習

先週は連日の「雨」でしたが、今週の予報は「まずまず」です。あと2週間と迫った運動会の練習が、本格化しています。5月13日(金)には、リモートではありましたが「運動会応援団の結団式」がありました。応援団員があいさつし、赤白団長から運動会のスローガンが発表されました。

心を一つに仲間と笑顔のわを広げよう!! みんなの努力に金メダル

このスローガンは、各学級から言葉を募集し、運営委員会、各委員長、応援団員で話し合って決定したそうです(激論だったそうです…それだけ子どもたちの思いが込められた言葉です)。スローガンは、子どもたちの「行動目標」でもあります。運動会が終わった後に、どの学年も「満足の笑顔のわ」が広がっていればいいなと思います。

ところで、PTA執行部とも協議のうえ、今年もまた「各家庭大人2人までの入場」「子どもの競演学年時のみの参観席」「来賓や地域の方をお呼びできない」運動会となってしまいます。心からお詫びいたします。何の懸念もなく来校いただける「コロナ終息後」にお待ちしています。

温かい「思い出」ができるような運動会に…!

私は「運動会」と聞くと、楽しかったことより、なぜか4年前に亡くなった父親とのエピソードを思い出すのです。父は電子機器の技術者で、怒るとすごく恐ろしいけど普段は物静かな人でした。父は「“優しい”という字は、イ(にんべん)に憂いと書くが、本当は憂いにイ(にんべん)をつけるのだよ。憂いのある人の横に、にんべん…つまり人が寄り添うことが“優しい”ということなんだよ」というような「心かけ」を教えてくれる人でした。

私が6年生の運動会の時、団体の演技は「組体操」でした。体が大きい方だった私は、常に「土台」の役割でした。特にピラミッドは肩やヒザが痛く、つぶれてしまうことも多くて、先生からは「土台がしっかりせんか!」とよく怒鳴られていました。私は「何でこれだけ我慢しているのに怒鳴られんといかんのか」と思っていました。ある日の夜、母からの「帰ったらすぐに体操服を出しなさい!」という言葉に、いらいらしていた私は体操服を袋ごと投げてしまいました。すると、父が「今の態度は何だ!」と鋭い声で言いました。私は、「叱られる」という恐怖とやり場がない気持ちに、涙が出てきました。すると、父は「おまえ頑張ってるんだよな!」と言うのです。思いがけない言葉に「何でわかるの?」と聞くと、「おまえの体操服泥だらけやんか。組体操の土台と聞いたぞ。おまえの上に何人も乗ってるんだろ。痛かろうに…」と父は答えました。その時になって、私は体操服を投げたことが恥ずかしくなりました。そして、叱られなかった安堵感とともに、何とも言えない「嬉しさ」を感じたのでした。

私は子どもたちが運動会をとおして、普段の学習とは違う「何か」を学んだり体験したりして欲しいと思っています。そして、「頑張った」とか「楽しかった」とか「嬉しかった」とか「誇らしかった」とか…後から振り返って温かいものであったらなあと考えます。保護者の皆様には「制約の多い運動会」で大変申し訳ありませんが、ちょっとした言葉かけなど、「思い出づくり」のサポートをお願いできたらありがたいと思います。